



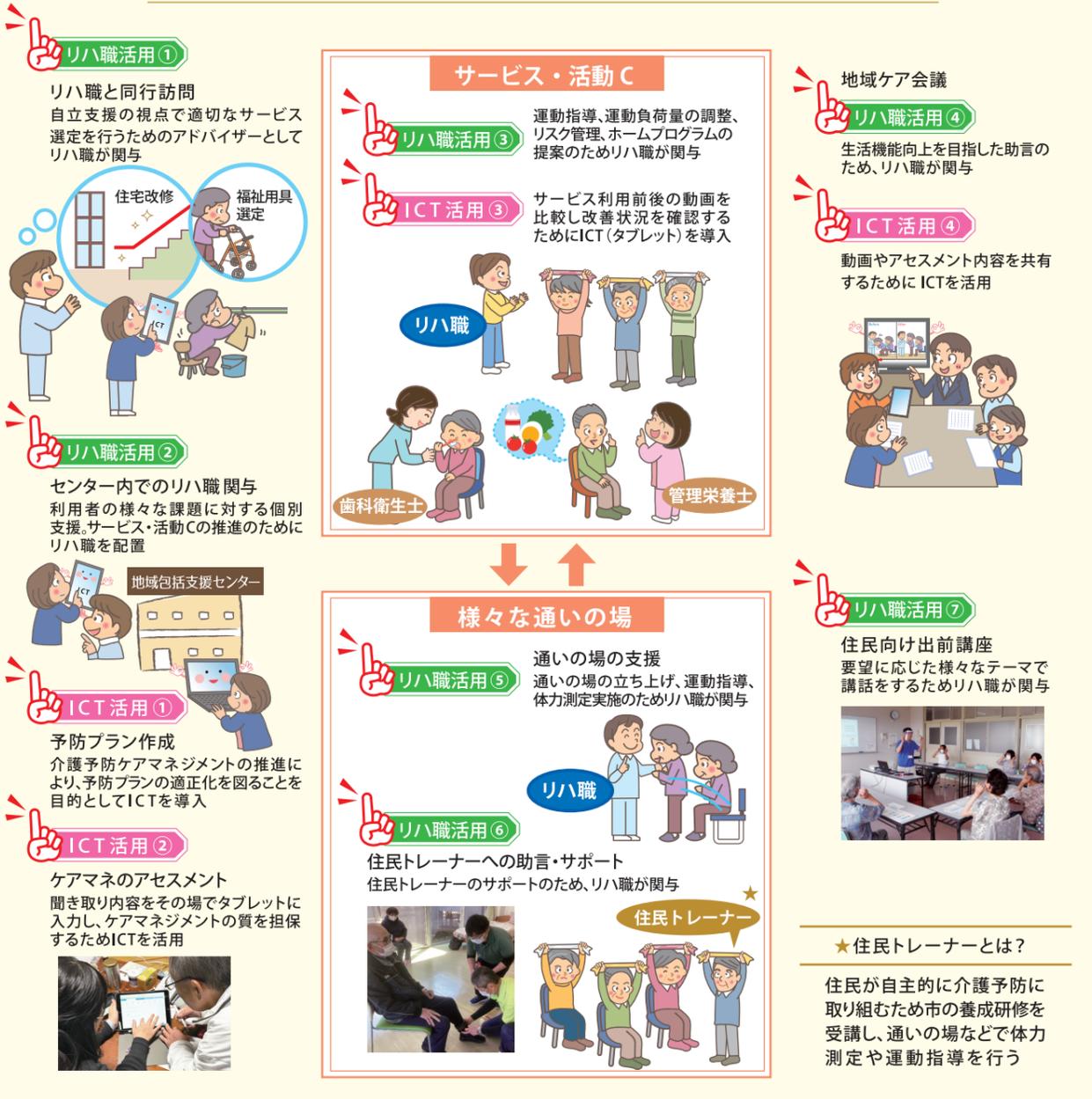
竹田市

様々な財源を活用して、センターに 5 職種（PT・OT・ST・管理栄養士・歯科衛生士）を配置。一般介護予防事業、総合事業に関与することで、自立支援の視点や専門職ならではのアセスメントの視点を多職種で共有した。またケアプラン作成支援ソフトも導入したことで生活機能向上を目指し、より自立支援につながるケアマネジメントの推進に繋がった。

PT：理学療法士 OT：作業療法士 ST：言語聴覚士

住民の生活機能向上の実現のため リハ職・ICT を積極的に活用

住民の生活機能向上を目的として、地域の様々な場々に専門職 5 職種が関与。運動、栄養、口腔、嚥下、聴覚などの課題にも随時対応している。



リハ職・ICT 活用のポイント解説

リハ職活用 ①
リハ職と同行訪問
利用者の残存機能を見極め、今後の見直しを行うことで、具体的な目標が示され**合意形成が取りやすくなる**。適切なサービス選定に繋がることで**給付費の適正化を図る**。

リハ職活用 ②
センター内での関与
利用者の運動・栄養・口腔・聴覚など複合的な課題に対する相談に随時対応することで、サービス・活動 C や通いの場への参加の動機づけを行うなど、**社会参加への推進を図る**。

ICT活用 ①
予防プラン作成
入力したアセスメント結果が予防プランに反映されるため、生活課題を明確化し、具体的な目標の設定ができる。
→**介護予防ケアマネジメントの質の向上・効率化**

ICT活用 ②
ケアマネのアセスメント
聞き取った内容をその場でタブレットに読み取り、経験の少ない職員でも、抜け漏れのないアセスメントが行える。
→**介護予防ケアマネジメントの標準化**

リハ職活用 ③ **ICT活用 ③**
サービス・活動 C
利用者に向けた生活機能向上のアドバイスやサービス利用前後の動画により、改善状況を確認することで、やりたいことの実現を目指し、**卒業後の適切な社会参加を支援する**。

リハ職活用 ④ **ICT活用 ④**
地域ケア会議
多職種が生活動作などの動画や ICT を活用したアセスメント内容を共有することで、**課題や目標が明確になり、その後の社会参加をイメージしやすくなる**。

リハ職活用 ⑤
通いの場の支援
立ち上げから関与し、定期的に体力測定を行うことで、**フレイルの早期発見**ができるため、適切なサービスへ繋がられる。

リハ職活用 ⑥
住民トレーナーへの助言・サポート
リハ職がサポートすることで、住民トレーナーのスキルも向上し、通いの場参加者の**運動機能や生活機能向上**を図っている。

リハ職活用 ⑦
住民向け出前講座
センターに多職種を配置しているため、様々なテーマで講話ができ、**住民への介護予防普及啓発を実施**している。

住民のなりたいたい姿を応援します！
リハ職 × ICT
介護予防ケアマネジメントの質の向上を目指すぞ！

コラム

「サービス・活動 C」と「通いの場」が介護給付費抑制の鍵！
～サービス・活動 C 利用群と未利用群では 1 人あたり 3 年間で介護給付費に 50 万円の差～

竹田市では、「リハ職が関与するサービス・活動 C」を利用し、要介護リスクが低減することで、市全体の介護給付費適正化に繋がっている。サービス卒業後も、送迎サービスのある運動教室や、歩いて参加できる「通いの場」などへの参加率が高く、高齢者の「通いの場」参加率が 10 年連続全国 1 位の大分県の中でも、竹田市が他の自治体を牽引している。このような活動が生活機能向上に伴う介護予防効果に繋がっている。



つくるくんの感想

リハ職が様々な場面に介入することで、通いの場などの一般介護予防事業からも支援が必要な利用者を把握し、早期にアセスメントに入れるので適切なサービスにつながって、地域での生活が維持できているんだね。さらに ICT を活用して、アセスメント結果などを共有することでリハ職から具体的なアドバイスがもらえ、利用者の合意形成が取りやすくなるんだ。介護予防の推進に、リハ職の関与と ICT 活用は大いに役立っているなあ～！